

第三中学校区

三条市地域あんしんネットワーク事業

地域見守りサービス懇談会報告書

～みんなが あんしんして いきいきと暮らせるまちに～



平成 22 年 3 月 16 日

三条市・三条市社会福祉協議会

目 次

1	開催の目的	1
2	開催日時	1
3	開催場所	1
4	参加者	1
5	当日の流れ	3
6	地域見守りサービスの取り組み状況	4
7	意見交換会の様子	5
8	各班の成果	6
9	今後の地域見守りサービスに向けて	10
	資料編	11

1 開催の目的

昨年12月からスタートした第三中学校区の地域見守りサービスについて、各地区の実施状況を共有し、見守りの必要性や取り組むうえでの課題などについて意見交換を行いながら、関係者同士の交流を深めるために開催しました。

2 開催日時

平成22年3月16日（火）午後2時～4時

3 開催場所

中央公民館 1階 大集会室

4 参加者（敬称略）：41名

1班 (16名)	本町1丁目	見守り訪問員・民生委員	三浦吉子
		見守り訪問員・自治会長	藤井春男
	本町2丁目	見守り訪問員	土田三千子
		見守り訪問員	土田信男
		見守り訪問員	外山美恵
	本町3丁目	見守り訪問員・民生委員	桑原ミヨ
		見守り訪問員	坂井フク子
	本町4丁目	見守り訪問員・民生委員	高橋紀子
	本町5丁目	見守り訪問員・民生委員	徳橋美智子
		見守り訪問員	山崎トシ
	本町5・6丁目	自治会長	吉田久一郎
	本町6丁目	民生委員	狩野節子
		自治会長	村田富治
		自治会長	井村孝嗣
		見守り訪問員・ご用聞き笑店街	丸山行彦
		見守り訪問員・ご用聞き笑店街	丸山恭史

2班 (12名)	八幡町	見守り訪問員・民生委員	吉田敏子
		見守り訪問員	吉田慧
	居島	見守り訪問員・民生委員	久住富士子
	横町1丁目	自治会長	馬場勇一
	横町2丁目	民生委員	石丸五生
	旭町1丁目	見守り訪問員・民生委員	長谷川正
		見守り訪問員・自治会長	吉田侑介
	東裏館1丁目	民生委員	外山正子
		見守り訪問員	若井美代治
	東裏館2丁目	民生委員	佐藤寛
		見守り訪問員	野崎實
		見守り訪問員	高橋昭朗

3班 (13名)	西裏館1丁目	見守り訪問員	竹石ノブ
		見守り訪問員	藤倉文子
	西裏館2・3丁目	見守り訪問員・民生委員	佐藤喜美江
	荒町1・2丁目	自治会長	山崎工
	荒町1丁目	民生委員	青木清子
	荒町2丁目	民生委員	高橋正代
	石上1~3丁目・石上2丁目	自治会長・民生委員	牛腸恒夫
	石上3丁目	民生委員	野水良子
	栗林	自治会長	齋藤稔
	見守り訪問員・ご用聞き笑店街		白椿弘栄
	見守り訪問員・地域ボランティア		佐久間和子
	見守り訪問員・地域ボランティア		山浦純子
	見守り訪問員・地域ボランティア		小林タケ

5 当日の流れ

14:00	開会あいさつ	市役所 佐藤福祉課長
14:05	スタッフ紹介	市役所福祉課：笹川、片野、栗林、土田 社会福祉協議会：星野、梨本、高橋 地域包括支援センター嵐北：渡辺、杉野、増井
14:10	全体説明	今日の予定、地域見守りサービスの取り組み状況
14:20 ↓ 15:10	<前半> 意見交換会 (班単位)	<ul style="list-style-type: none"> ・班内自己紹介 ・事前アンケートの項目に沿って意見交換 ・自由な意見交換 (なんでもOK)
休憩 (10分)		
15:20 ↓ 15:50	<後半> 各班の発表 連絡・お願い	各班の発表 <ul style="list-style-type: none"> ・各行政区へのお願い ・民児協、自治会長協議会への周知について ・地域包括支援センター (嵐北) について
15:50	閉会	社会福祉協議会 星野次長



6 地域見守りサービスの取り組み状況（平成22年3月9日現在）

①既に対象世帯に見守りを開始している地区、②対象世帯はないものの訪問体制は整っている地区、③いずれも準備段階の地区にわかれています。

第三中学校区	対象世帯			訪問体制 民生委員、自治会役員、健康推進員、地域住民、ご用聞き笑店街等	訪問回数 12月～2月			備考	
	一人暮らし	高齢者のみ			声かけ	巡回			
① 開始地区	西裏館1～3丁目	13	6	7	7	129	119	10	
	本町2丁目	5	5	—	6	19	15	4	
	本町3丁目	3	3	—	2	20	20	—	
	本町5丁目	2	2	—	2	7	7	—	休止1人含む
	東裏館1～2丁目	4	3	1	6	16	16	—	
	居島	4	3	1	2	16	14	2	
	本町4丁目	4	4	—	2	12	7	5	
	本町6丁目	2	1	1	2	7	7	—	ご用聞きから2人
	旭町1～2丁目	1	—	1	3	1	1	—	
	荒町1～2丁目	7	4	3	1	—	—	—	3月スタート
	石上3丁目	4	2	2	2	—	—	—	3月スタート
②	本町1丁目	—	—	—	6	—	—	—	訪問体制あり
	元町	—	—	—	4	—	—	—	〃
	八幡町	—	—	—	12	—	—	—	〃
③ 準備地区	横町1丁目	—	—	—	—	—	—	—	
	横町2丁目	—	—	—	—	—	—	—	
	神明町	—	—	—	—	—	—	—	
	東裏館3丁目	—	—	—	—	—	—	—	東裏館1～2丁目と連携予定
	石上1丁目	—	—	—	—	—	—	—	石上3丁目と連携予定
	石上2丁目	—	—	—	—	—	—	—	石上3丁目と連携予定
	栗林	—	—	—	—	—	—	—	石上3丁目と連携予定
計	49	33	16	57	227	206	21	ご用聞き登録6人 登録訪問員計63名	

7 意見交換会の様子

3つの班に分かれて、活動して良かったことや困ったこと、もっとこうしたら良いのでは？といったアイデアなど、活発な意見交換が行われました。

【1班の様子】本町1丁目～6丁目



【2班の様子】八幡町、居島、横町、旭町、東裏館



【3班の様子】西裏館、荒町、石上、栗林、ご用聞き笑店街、地域ボランティア



【2班の成果】八幡町、居島、横町、旭町、東裏館

地域見守りサービス懇談会 2班 H22.3.16
No1

良かったこと -喜んでいた。-

- ・負担にならない程度に訪問できる体制ができた。
- ・新年度からは、予算も増やしている。
- ・老人会と協力して行っている。
- ・申請していなくても、声かけも行っている。
- ・回を重ねていくうちに、安心感ももてていた。
- ・次回の訪問日も、伝えておく。待っていてくださる。

○同じ方が訪問されるので、顔なじみになれる。

困ったこと

- ・訪問員により、拒否される事例があった。
- ・登録者の手続きについて、知りたい。→
- ・緊急通報装置をもっと普及させてほしい。→
- ・訪問日をお忘れ、対象者が外出してしまふ。
- ・対象者の希望がないのに見守りを行なっているのか。→

○対象者が女性で訪問者が男性の場合。(反対の場合も)
2010/03/16

○対象者が女性で訪問者が男性の場合。(反対の場合も)
2010/03/16

・対象者の希望がないのに見守りを行なっているのか。→

行政への要望

- ・主旨のPRの徹底。
- ・民生委員との横の連携が必要。
- ・アンケートの取り方。(初対面の方に、詳しい話はできないのではなか)。
- ・見守り訪問員の役割の説明。(対象者への)

No2

【3班の成果】西裏館、荒町、石上、栗林、ご用聞き笑店街、地域ボランティア

地域見守りサービス懇談会 "3班" No. 1

○ 良かった!!

- ・ 元気が確認できる (佐藤)
- ・ 高齢者へ感謝される (熊倉)
- ・ 日頃 声をかけない人
→ 気づくようになった
- ・ 「お互いさま」の気持ちで

○ 困った!!

- ・ 孤独と思えてくる? (全体)
- ・ 活動により 時間の気になる (熊倉)
- ・ 週1回 → 毎週2回でもよいのでは?
- ・ 見守り希望あり. 訪問 (何回行くと)
- ・ 留守留守 ⇒ 必要か? (全体)
- ・ 1人でも元気 - 倒れたら不安

2010/03/16

H22. 3. 16 No. 2

○ なんとかしたら良い!!

- ・ 誰に訪問してほしいかを聞く (確認)
- ・ * 民生委員 健推以外の人でも

親せきから見守り当りませ
見守り = 義務 } こまめに声をかけ見守り開始 → 必要
近所 = フリー } 両方で..... 活動と情報交換の繰返し

○ その他

- ・ 民生委員活動
- ・ 高齢者ついで
- ・ 地域まわり
- ・ 訪問する人の連携 大切 → 任期は?
- ・ 気になる
- ・ 石上 西ウラ
- ・ 元気の確認 ~ 様々な形 (訪問だけでなく) 健推から訪問員になった人

2010/03/16



多くの方々から喜ばれています！

訪問を重ねるにつれて、安心感や信頼感が生まれ、地域の中での良い人間関係の輪が少しずつ広がっています。

継続するためには無理は禁物

お互いがあまり負担を感じないようにするためには、訪問日時を固定しないことや、週1回にこだわらず、できる時にやるという「ゆるやかさ」も大切です。

それぞれの地区に合った体制づくり

見守り訪問員に特別な資格は要りません。民生委員や健康推進員に限らず、老人会、婦人会、PTA、また、他の地区からボランティアを受け入れることも自由です。それぞれの地区の将来を見据えた体制づくりが必要です。

より良い見守りサービスのために

訪問員、民生委員、自治会などが連携することが重要です。その中で、「安否確認」や「話し相手」以外にもできることを検討する、日中だけ1人になる高齢者も見守る、活動に必要な経費を予算化する、といったことも可能になります。

※今回の第三中学校区をモデルとした地域見守りサービスのPRが足りない！
といった声も多く寄せられました。スタートして約3ヶ月、これからはもっと
皆さんの活動を宣伝していきたいと思っております！！（ご協力をお願いします！）

9 今後の地域見守りサービスに向けて



既に見守りを実施している地区の皆様へのお願い



- ・新たな対象世帯の掘り起こしにもご協力ください。
- ・日頃からの訪問員同士の情報交換（交流）をお願いします。
- ・（仮）定例連絡会にもご参加ください。（2ヶ月に1回程度を予定）



訪問体制が整っている地区の皆様へのお願い



- ・（市や社協と相談しながら）対象世帯の掘り起こしをお願いします。
- ・（あらかじめ）認知症サポーター養成講座の受講をおすすめします。



準備段階の地区の皆様へのお願い



- ・訪問体制づくりのご検討をお願いします。（構成はさまざまです。資格等も必要ありません。）

次年度も、第三中学校区での見守りサービスを継続します。今回の懇談会で整理した課題等への対応も含め、より良い「共助」の仕組みづくりに取り組んでいきます。

いつでもご相談ください！

福祉課 福祉政策室 34-5511

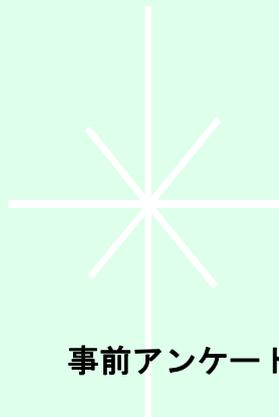
社会福祉協議会 33-8511

※4月から変わります！

地域包括支援センター嵐北 36-0620

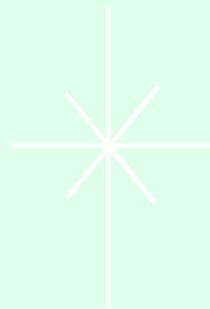


お待ちしております！



資料編

事前アンケートで寄せられたご意見等をまとめました。



○活動して良かったこと

- ・定期的に訪問することで楽しみに待っていてくれる感じがする。
- ・一人暮らしの寂しさを心のどこかで感じている様子。様々な話題で話が続く。
- ・話を聞いてあげることで安心してくれているようである。
- ・私も両親を介護しており、歳の近い方の見守りはいろんな話が聞けて役立つ。
- ・地域のコミュニケーションが良くなり薄れかけた絆が少しずつ復活する。
- ・話がしたくてお願いしたとのこと、いつもお茶を用意して待っている。
- ・いろいろな方にお会いできることは良いこと。
- ・同じ訪問員の仲間がきちんと活動していて感謝しています。
- ・訪問先の一人暮らしの方がまわりに迷惑をかけないように心がけて生活をしている。自分も生活態度を改めて自己管理していきたいと思った。
- ・今まで以上に、より親しくなれたこと。
- ・自分自身は家族と同居でありがたいと改めて感じた。
- ・一人暮らしの方の健在を直に確認できること。
- ・「いつも自分を見守ってくれてありがたい。感謝しています。」と云われる。
- ・玄関先での訪問でしたが、決めた時間にはちゃんと家で待っておられ、顔を見て話ができ。近所のこと、世間の事など、私の知らない情報を聞かせていただきとても役に立ち楽しかった。
- ・訪問先の方と親しくなり買い物で道で会った時には、お互いに声を掛け合うようになった。付き合いが良くなった。
- ・ひと対ひとの見守り訪問は心が通じて、話ができ、その時々顔色の変化で今日は調子が悪いとか、風邪気味だとかがわかる。いろいろと判断できるので良いと思う。
- ・老人会と協力して行えている。
- ・行政と一緒に取り組みを開始し、認識が高まった。
- ・訪問を重ねるにつれ、打ち解けて下さる事が感じられ嬉しい。また、人が訪ねて来るといふ事により、気構えが出て来ている様である。日増しに日常生活の中で、整理整頓を心掛けているようである。
- ・本人自身の意識の変化がみられる。

○活動して困ったこと

- ・ねんきん特別便を見て調べてほしいと言われた。
- ・いろんな体験をした女性の方がアドバイスできる。男の方が困る事が多い。
- ・休日と重なると少し困りました。
- ・対象世帯の方がとても元気で活動的なのでなかなか会えない。
- ・決められた日時だと困ることがある。
- ・対象世帯のアパートの階段が急で昇れないこと。
- ・体力不足を感じた。
- ・親切にしてもらいありがたいとお菓子を持って来られ困った。
- ・受け持ちは2世帯でしたが、時間を約束しておくのは大変だと思った。雪が多い日も大変で、消雪パイプもない細い道路の奥の家で、お昼を過ぎても足跡すらついていない日もあったが、そんな時こそ行って話をすべきだとは思う。
- ・見守りをする人の好き嫌いを言う人がいる。

○「もっとこうしたら良い」などの提案

- ・家族が同居している友達が3人いて、週1回場所を決めて4人でおしゃべりを楽しんでいる。また、同居していても会話がないう人もいる。私は、たとえ一人でもこうして尋ねてくれる人がありうれしいと言っておられた。こんなおばあちゃんたちが気楽にお茶できる場がもっと多いと良い。
- ・介護サービスを受けている人でも見守りが必要な場合があると思う。
- ・十分お元気で能力も自信もある世帯への訪問回数は月1回でも良いと思う。
- ・1週間に1回の訪問でなくても良いのではないかと。例えば1回目は訪問で2回目はさりげない見守り、3回目にまた訪問という繰り返しでも良いのではないかと。
- ・限られた人数で限られた人を対象とするだけでなく、思いやりの精神で自治会全体で取り組むことが必要であると思う。

○活動する際に何か心配や不安なこと（これから活動する場合）

- ・すべてが不安。日時を決められると行動しにくいのではないかと。
- ・時間を決められると互いに重荷（負担）になりそう。
- ・特に心配はない。（今活動されている方のご意見をお聞きできるので。）
- ・相手の方とうまくやっていけるかが不安です。

○地域見守りサービスの取り組み全体についての評価

- ・一人住まいの高齢者、また高齢者のみの世帯が増加する状況下では、真剣に取り組む問題だと思っています。
- ・スタートして、まだ登録者との実施経過など話し合いの機会がなく、実態を伺っていないが、見守りをすることは、今後ますます高齢者の一人暮らしが増加するので必要性を痛感する。なお、今後の懇談会では体験談などの情報を期待したいと思います。
- ・一人暮らしの高齢者は、とかく家の中に閉じこもりがちです。このような人たちに話し相手となってやることが大変重要であると思います。そして高齢者に元気を与えることにもなると思います。
- ・必要に迫られる前からの顔つなぎができることが良い。
- ・本当に必要な人に対しての支援（見守り）ができていない。

○そのほか、自由意見

- ・急速に高齢化が進んでいるので、もっと市民に知らせ、広報する必要がある。
- ・時間制限が10～20分くらいとのことですが、長くなる時がある。
- ・見守り訪問も結構だが、救急患者の受け入れ先について、2時間も決まらず、応急診療所が開くのを待って治療したということがあった。見守りをしていてもこのような事が起きては困る。一刻も早く県央に救急病院をつくってほしい。予算はそっちに使ってほしい。見守りはお金ではなく地域で頑張る。
- ・こういう組織が大事ですが、以前、当町内で夕方4:30頃に救急車が来た際、引き受け先が無いとのことで、救急車が出発したのが夜7:30ということがあった。連絡網があっても肝心の受け入れ先がなければ何にもならない。早く県央の救命救急センターをつくってほしい。
- ・旧市街地なので長く住んでいる方が多く、又町内会等で行き来があり、互いに声をかけあって生活している方が多くいる。今のところ必要ないかなとも思っている。
- ・買い物が不便になってきている。
- ・日常的な軽い作業ができない人がいる。(除雪や灯油の注ぎ足しなど)
- ・経済力からくる生活の格差を感じる。
- ・見守り、声かけの大切さを感じた。数年で高齢化がもっと進む。今から心して取り組んでいきたい。
- ・見守りサービスをまだ知らない人がいるようですが、もっと高齢者に知らせて利用してもらったら良いと思う。
- ・もう少し体験的に継続してみないとわからない。継続していくうちに打ち解

けていく様子もわかる。

・見守りの登録は何年かのサイクルで再度実施するのか？自治会単位で募集をかけるのか？緊急通報装置の普及状況も気になる。

・現時点では我々の地域では「見守りサービス」を希望する方はおりません。しかし、民生委員の話では該当する状況の方が数人おいでになるとのことですが、市の調査では、希望者はいないとの報告でした。プライバシーに関わる問題でもあり、希望がないのに勝手に活動することに憂慮いたしている状況下であります。

・民生委員として、一人暮らしの方には日頃、声がけをしたり、少しの話し相手など、皆さんの元気な様子を確認したり、励ましの言葉がけをしています。見守りサービスのことが、まだわからないのではないかと思います。周囲の情報や実態がわかってくると、自ら希望され、今後増えてくるのではないのでしょうか。とにかく自治体、地域、見守り訪問員、民生委員等々、日頃から横の連携をとり、やっていかなければと思っている。



～みんながあんしんして、いきいきと暮らせるまちに～

